

# 郷土 撰 津

いにしえ通信

平成10年5月1日

発行

撰津市三島一丁目1番1号

撰津市教育委員会生涯学習部生涯学習課



◎ 創刊にあたって

日々、生活しているわたしたち撰津の地の下で、先人の暮らしの証が眠っていると思ふだけ、足元がすぐれたくなる感じがします。また、忘れられようとしていく、撰津の地にもありまじく、この通信で、市民の皆様にお知らせすることや、市民の皆様にお知らせすることや、郷土撰津の一味がう情報をお伝えしたく思っております。

生涯学習課長 芝野 考一

## 平成九年度・撰津市発掘調査成果展

「大地に刻まれた歴史」展を開催中

撰津市において、平成九年度に実施された発掘調査についてわかりやすく解説しています。

とき 平成10年9月20日まで  
 じかん 午前9時から午後5時まで  
 ところ 市役所1階・本館ロビー  
 主催 教育委員会・生涯学習課



『展示内容』

- ◎ 蜂前寺跡出土の古墳時代の須恵器や鉄鏡
- ◎ 千里丘二丁目の試掘調査より出土した石鏡
- ◎ 東正雀の試掘調査で出土した古墳時代の土師器など

皆様のご来場お待ちしております。

※ 最新調査報告

## お知らせ

◇ 平成十年度ふるさと撰津案内人養成講座

歴史に興味のある方で市内の史跡文化財等の案内をしていただく生涯学習ボランティアを養成することを目的とした講座です。

内容 全体学習・グループ学習・フィールドワークなど

申し込み 五月十三日までに、生涯学習課まで直接かまたは電話で申し込み。  
 ☎ 06-3831-1111  
 (内線 331-1111)

展示の案内

## 『高山右近とその時代』

場 所 吹田市立博物館

開館時間 午前九時三十分～午後五時

休館日 五月六日、十一日、十八日、二十五日

期間 平成十年四月二十九日から五月三十一日まで

◇ 埋蔵文化財の取り扱いとお願い  
 撰津市では、市内で実施される土木工事等に対し事前に試掘調査・立会等の協力を求めています。詳しくは生涯学習課までお問い合わせ下さい。

## その1 『年中行事』

おじいさん・おばあさんに聞きました  
ちよつと昔のくらし

「大晦日」ヨーネンコというて遅くまで遊んで、除夜の鐘が鳴ると雑煮でお祝いして、お宮さんにお参りします。

「お正月」学校で式があり、紅白のマンジュウをもらいます。大人は集会所などに集まって新年のあいさつをします。



「とんど」一月十五日、葉を付けたままの長い竹を何本も組んで、正月飾りといっしょに燃やします。燃え残りの火を持って帰って、アスキガユを炊いて食べます。

「寒の餅」お餅をたくさんついて、アラレやカキモチにして、一年じゅうのオヤツにします。

「味噌作り」どこの家も自分の家の味噌を作ります。

「山行き」村じゅうみんなで、トチソウを持って、ジネンジ山（毎日放送のある山）などに行つて遊びます。安威川にヤマイキしたところもあります。



「村芝居」青年団や旅役者が、田んぼや空き地に臨時の小屋を作つて芝居をします。

「伊勢神楽」麦と米の収穫の頃、伊勢から来た獅子舞が各家を回ります。今でも回っているところがあります。

「田植え」腰をかがめて、苗を植えます。学校は休んで、子どもも子守や弁当運びなどを手伝います。

「さなぶり」田植えの後の休み。ボタモチを作つて食べます。

「草取り」暑い頃のつらい仕事です。だからヒノツリといつて昼寝もします。

「虫送り」夜、タイマツを点けて、カネを叩いて行列します。遠くからも見えて美しいものです。

「夏祭り」秋祭りより地味です。

「お盆」摂津市地域は浄土真宗が多いので、派手な行事はあまりありません。ヤイリで、若嫁さんや奉公人が実家へ帰ります。

「野外映画会」学校の運動場に白い布を立てて、映画を映します。裏からも見えます。

「盆踊り」浴衣がけて、江州音頭などに合わせて踊ります。徹夜で踊つたところもあります。

「地蔵盆」お地蔵さんの前に子どもが集まって、遊んだり食べたりします。



「タン」突き」お月見のおタン」を、子どもが竿で突いて盗みに回る行事です。

「秋祭り」昔は盛大でした。授業もちよつとだけで終わり。親戚も集まつてきて、カシワをつぶしてスキヤキにして食べます。

「運動会」午前は子どもの運動会、午後は大人の運動会です。仮装行列もありました。村の大きな行事です。

「田刈り（稲刈り）」稲木に架けて、天日でよく干すと、おいしいお米になります。

「相撲大会」昔はスモウが盛んでした。アロの相撲取りも住んでいました。相撲の強い人は女性によくもてました。

「ホン」さん（報恩講）」お寺でお説教があります。これも楽しかったです。露店がお祭り以上に出たところもあります。

「いのこ」男の子たちが、ネギをワラで包んだものを持って、各家を回つて、歌いながら地面を叩きます。

「しめなわぬい」初詣でまでに、神社のシメナワを新しく作ります。近年は、作れる人が少なくなつてしまいました。

（昔から摂津市地域で暮らしてこられた六十歳代から八十歳代の五十人ほどのお方に「昔の暮らしの様子」を聞かせてもらったまとめです。）



# 郷土史コーナー

各地域のそれぞれの歴史をご案内

## 摂津国のいわれと範囲

「古事記」に倭↓大和国、川内↓河内、山代↓山城（山背）の地名表記がありますが、摂津に対応するものはありませんでした。

国の地域区分は、山や川などの自然的条件や有力豪族の勢力範囲といった歴史的条件に基づくのが普通でありました。しかし、摂津国の「摂津」は難波津を管理するという意味ですので難波津を重視する律令国家の必要によって造られた国と考えられます。したがって、律令政府による設定までは、摂津国の主要な部分は、河内の地域の一部とみなされていました。

摂津国は、はじめ「津国」と称していたようです。国名を二字に統一する課程で、木国・紀国が紀伊国に改められたように、津国も摂津国と表記されることになったと考えられます。又摂津国と書いて「つのくに」と読むのが古代以来の慣例でありました。

摂津国の範囲は

東↓三島郡島本町まで（山城国と接する）

西↓神戸市須磨区まで（播磨国と接する）

南↓大阪市住吉区まで（和泉国と接する）

北↓大阪府能勢町まで（丹波国と接する）  
兵庫縣猪名川町まで

### 難波の津

淀川と大和川とが合流して大阪湾に注ぐ河口を利用した港でしたが、はやくから水上交通の盛んな瀬戸内海に直結する交通上の要地でありました。朝鮮や中国の進んだ文物や渡来の人々も、多くはこの津を経由して畿内の地に入ったと思われまます。



摂津国（江戸時代）

## 三島のいわれと範囲

どうして三島の名がついたか、はつきりとはわからないが、説を紹介します。

「伊予国風土記」逸文に「津の国の御島」とみえるが、この「御島」が正規の表記とする説があります。

三島郡とは、現在の吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、島本町が含まれます。明治二十九年前までは、島上郡（現高槻市、島本町）と島下郡（現吹田市、摂津市、茨木市）に分かれていました。

大化前代の摂津市域は、三嶋県に属したと思われまます。三嶋県あるいは三嶋郡と呼ばれた摂津国東北部は、嶋上郡と嶋下郡に分轄されました。両郡の文献上の初見は和銅四年（七一）であることから、欽明朝から元明朝に至る間、大化改新あるいは律令制下に分轄されたと思われまます。

昭和四十一年に三島郡三島町から摂津市に、昭和十五年に三島郡吹田町（周辺の村含む）から吹田市に、昭和二十三年に三島郡茨木町（周辺の村含む）から茨木市に、昭和十八年に三島郡高槻町（周辺の町村含む）から高槻市に、現在、三島郡は島本町だけになりました。（茗荷）

考 雑

古 話

第1号

わが国における縄文時代の生活

三内丸山遺跡の発掘と縄文時代の生活

このコーナーは、最近の考古学の成果を中心にわかりやすく古代の生活や道具について説明できればと考えております。近年の発掘調査の件数はうなぎのぼりに増加しています。昭和四十八年には、二〇六六件であった発掘調査の件数（届出等合計・文化庁による。）が、平成八年には四一八八〇件まで増加しています。このような発掘調査の増加により、おびただしい数の報告書が作成され、重要なデータが蓄積されています。その中には新聞の一面を飾るような発見もあいついでいます。そして、それらの発見により日々歴史は書き換えられるといっても過言ではありません。その中でも縄文時代の発掘調査成果については、目をみはるものがあります。最近、話題の三内丸山遺跡の成果もそのひとつとして挙げられます。これより、青森県の三内丸山遺跡の発掘調査の成果を中心に縄文

時代の生活に思いを馳せてみましょう。きっと想像以上に進んだ当時の生活や技術に驚かれることと思います。その前にちよつと縄文時代についておさらいしておきましょう。

縄文時代は、土器の出現をもって始まると考えられています。その土器の出現・発展・展開については諸説があります。しかし世界の土器のなかでも極めて古いという事と、その完成度の高さについては異論の余地はありません。

土器の出現により、人類の食生活におおきな変革をもたらしました。煮炊きによる調理や食物を貯蔵することが生活の一部に加わったのです。（つづく）



三内丸山遺跡の位置

	BC 300	BC 1000	BC 2000	BC 3000	BC 4000	BC 8000	BC 1F
縄文時代	縄文時代						BC 1F
時代	晩期	後期	中期	前期	早期	草創期	
	← 三内丸山遺跡の時代						

トピック・見出しで読む考古学

**三角縁神獣鏡三十二箇出土** 天理の黒塚古墳  
 耶馬台国畿内説を補強  
 耶馬台国畿内説を補強  
 (平成十年一月十日・読売新聞)

奈良県天理市柳本町の黒塚古墳の墳頂部の埋葬施設から大量の銅鏡が出土しました。三角縁神獣鏡は卑弥呼が魏の国からもらった鏡だと考えられてきました。今回の発見により邪馬台国の畿内説が強まった感があります。

【あ】 明石原人

○昭和六年兵庫県明石市の西八木海岸において直良信夫が人間の腰骨の破片を発見する。この腰骨は直良の家が戦災にあい焼失してしまふ。

「あ」  
 からほじまる  
 考古学

その後、東大人類学教室の長谷部言人が腰骨の模型と写真を見つけて「原人」段階の化石人骨であると考えた。○原人が生きた時代は八十万〜十五万年前と考へられている。○しかし、その後の比較・研究により原人の可能性は低いという問題提起がされた。昭和六十年には大規模な発掘調査が実施され、結果は化石・石器は出土せずに終わる。

(伊部)